

## 第2回 神崎市総合計画審議会

日時：令和4年11月1日（火）15：00～

場所：神崎市役所 本庁舎 3階 大会議室

出席者（神崎市総合計画審議会 委員名簿）

|    | 氏名     | 所属及び役職など             | 区分           | 備考 |
|----|--------|----------------------|--------------|----|
| 1号 | 平山 文也  | 神崎市議会                | 市議会の議員       | 欠  |
| 〃  | 永 沼 彰  | 神崎市議会                | 市議会の議員       | 欠  |
| 〃  | 山口 義文  | 神崎市議会                | 市議会の議員       | 欠  |
| 2号 | 實松 孝則  | 佐賀県農業協同組合 三神エリア 総合部長 | 公共的団体の職員     |    |
| 〃  | 永 沼 功  | 神崎市商工会 会長            | 公共的団体の職員     | 欠  |
| 〃  | 森崎 三善  | 佐賀東部森林組合 組合長         | 公共的団体の職員     | ◎  |
| 3号 | 野 田 聰  | 神崎町地域懇談会 副会長         | 学識経験を有する者    |    |
| 〃  | 佐藤 悦子  | 千代田町地域懇談会 副会長        | 学識経験を有する者    |    |
| 〃  | 真島 久光  | 脊振町地域懇談会 副会長         | 学識経験を有する者    |    |
| 〃  | 高尾 あい子 | 神崎市教育委員会 教育委員        | 学識経験を有する者    |    |
| 4号 | 岸川 政晴  | 神崎市区長会 会長            | 市長が特に必要と認める者 |    |
| 〃  | 筒井 信秀  | 神崎市身体障害者福祉協会 会長      | 市長が特に必要と認める者 | 欠  |
| 〃  | 田中 和子  | 神崎市母子保健推進協議会 副会長     | 市長が特に必要と認める者 |    |
| 〃  | 馬場崎 安則 | 神崎市老人クラブ連合会 会長       | 市長が特に必要と認める者 |    |
| 〃  | 安田 みどり | 西九州大学 教授             | 市長が特に必要と認める者 | ○  |

◎…会長 ○…副会長

### 【配布資料】

- ・資料1 第2次神崎市総合計画（後期基本計画）施策の実施状況評価及び検証
- ・資料2 第2次神崎市総合計画（後期基本計画）市民アンケート調査報告書〔暫定版〕

## 【 次 第 】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議題
  - (1) 第2次神崎市総合計画（後期基本計画）施策の実施状況評価及び検証について
  - (2) 第2次神崎市総合計画（後期基本計画）市民アンケート調査報告書〔暫定版〕について
4. その他
5. 閉会

## 《 議 事 内 容 》

### (1) 第2次神崎市総合計画（後期基本計画）施策の実施状況評価及び検証について

～（資料1）事務局より説明～

- 会 長：ただいま、事務局から説明があった。何かご意見ご質問等ないか。
- 委 員：1ページに評価方法の説明があったが、数字で示せるものと数字に示せない感覚的なものがあるかと思う。評価が高いものは何らかの実績が出ていると判断されたと考えていいのか。どういう捉え方をされたのか。
- 事 務 局：ヒアリングによって点数付けをしている。まずは原課の方で評価した上で、事務局である企画課とのヒアリングを実施している。それを踏まえた上で評価をしている。目標値を定めているものと定めていないものがある。定めていないものに関しては原課との擦り合わせの中で感覚的な評価となっている。
- 委 員：職員と市民の間で感覚のズレが出てくる可能性が当然あるかと思う。市民から見れば成果が出て初めて良しとなる。A評価のものについて2、3見てみたが、私の評価と違うものもあった。
- 委 員：2ページの一番下、行財政運営に関してだが、(2)事務の効率化、組織のスリム化、(3)職員の育成、意識改革は人に関わる部分だが、市役所内部での評価も低いP D C Aが回っているのかという気がする。
- 事 務 局：P D C Aが的確にできたかといえばはっきり確認できてはいないが、例えば(3)職員育成、意識改革については、職員研修が事業として含まれている。概ね達成できたとなっているが、点数を下げているのが会計年度職員のアウトソーシングについてである。窓口業務等をアウトソーシングして会計年度職員を減らしたり、職員を減らしていこうという部分が思うように進んでいないということで、今後そういったことも課題になってくるということである。先程言われた目標値については、事業毎に目標値を定められるものについては極力定めた上で後期基本計画に盛り込んでいきたいと考えている。
- 会 長：実施評価は事務局が職員からの意見等を聞いた上での評価だと思うが、住民から評価は中々見えない部分がある。役所としては高い評価だが市民から見て低い

評価もあろうかと思う。

委員：一番最後のページだが、例えば基本理念1の基本方針②の(1)身近な商業機能の強化がすごく満足度が低く、政策評価も低い、重要度が高い。これは満足度が低く重要度が高いから、新しい施策にしていかなければならないと分かる。逆に、満足度も低く、重要度も低いものもある。これから計画を策定していく中でどこまでこの重要度を活かして施策に反映していくべきか。もちろん、全ての評価の低いもの、重要度も低いものについては、新しい施策を作っていかなければならないとか、今より重点的にしなければならぬ等があるかと思うが、この数値を見てどこまで活かしていくのかというところが難しいと感じているので、市としては、どこまでこれらの数値を計画策定に活かしていくのか、というのをお聞きしたい。

事務局：この表の一番大きな目的として、市役所側の評価と市民の評価の違いというのを見える化したいというのがあった。市役所側は結構事業を推進したと評価したが、市民側は満足していない、重要度も高い等の評価のズレ等がある程度見えてきた。その中で、限られたパイの中で、事業に力を入れる、ある程度ここは進んでいる、進んでいないと、そういった事業に対して、優先度を設ける必要があると考えている。まずは市民の意見を最優先に考え、優先度を盛り込んだ後期の基本計画にしたいと考えている。次の議題の市民アンケートのところで、その説明をしたいと考えている。副会長が言われるように、そのバランス的なものをどう判断するのかというところで言うと、まず市民の意見を第一に考えて優先度をつけている。その中で、事業を推進しないといけないというところを評価値として、職員に見える形にさせていただいたというところである。

会長：はい。他にないか。

委員：3ページの取組み・事業等が比較的進んでいない施策の中の「⑫効率的かつ効果的な行財政運営を行う」の中の「(2) 事務の効率化、組織のスリム化」、「(3) 職員の育成、意識改革、」これは具体的にどのようなことを実施しているのか。

事務局：「(3) 職員の育成、意識改革」については、具体的には、外部委託の実施等による臨時嘱託職員のアウトソーシングの推進、人事評価システムの適正な運用、市職員のスキルアップにつながる各種研修の実施の項目があり、こちらの事業等について、それぞれ担当課、係の方とヒアリングを実施した上で、これはできた、これはできてない、という形で評価をしている。

委員：例えば、事務の効率化、組織のスリム化、あるいは職員の育成、意識改革については、地場に他の産業の、他の企業がある。そういうところを参考にするというのも1つの手ではないか。職員の育成についても、例えば、外部研修等があれば、そういうところに出して勉強してやる、ということも1つの手ではないか。

事務局：はい。職員の研修等は、外部に行ったり、定期的を開催したりして、ある程度は達成できている。事務の効率化、スリム化に対しては、デジタル技術を取り込んで推進していきたいと考えており、進んでいる民間企業の事例も参考にしながら、後期基本計画の方に盛り込んでいきたいと考えているところである。

- 委員：数値等で見える化したいという話があったが、そういう目線で実施したことは、市民にとってもものすごくいいことだったと思う。特に①、②の子育て、医療関係のところは重要度が高くなっている。ただ満足度としてはそれより低い数値が出ている。子育て、医療関係及び③の災害に強いまちづくりに関しては財源の確保が、非常に重要になってくる部分である。お金が必要な部分である。財政をどう整備されていくのかお聞きしたい。
- 事務局：子育て支援、高齢者福祉、事務の効率化も含めて、市の一般財源だけでは賅えない部分がある。こちらについては、国がその時代時代に応じた、様々な国庫補助金を設けている。その活用を視野に入れた上で事業を選定し、素案の方に盛り込んでいきたいと考えている。補助金の内容は変化していくので具体的にこの補助金を使ってこういう事業をするとは書かずに、補助金の活用可能性や事業規模の方を見極めながら、事業の方を選定していきたいと考えており、今ある補助金を活用して、こういう施策を実施するという具体的などころまでは、総合計画の中では謳わないようにしたいと考えている。
- 委員：市民全員が満足できるようなものは難しいので、優先順位をつけるのであれば、その優先順位をつけるものとしてはっきりしたものとしていいと思う。それをいかに市民の方々まで浸透させていくかが難しいところと感じたところである。
- 委員：施策評価のところは5.0になっている部分もいくつかあるが、施策的には継続をしていかないといけないものもある。施策はやったけれども、市民アンケートの評価が伴ってないところは、がらりと施策を変える必要がある。また、施策を実施しているけれども、結果がまだ伴っていないもの、市役所の施策評価も低くて、満足度も低いっていう部分もあるかと思うが、結果がすぐに出るわけではない施策というのものもある。そのような部分も考慮して次の施策に活かしていただきたい。
- 事務局：ヒアリングの中でも、まだ十分に結果が出てないと原課が考えているものもあったので、辛抱強くやり続ける事業と、切り口を変えていかなければならない事業等で、見直し等をかけていきたいと考えている。
- 委員：3ページに環境共生の項目があるが、これは一つの景観としても捉えていいと思うが、本庁の入り口は神埼市の一番の顔でもあるので、植栽の整備など来訪者が来た時に神埼市としてのインパクトを与えられるような玄関にしてほしい。
- 会長：この件については、今後検討、協議していただけたらと思う。

(2) 第2次神崎市総合計画（後期基本計画）市民アンケート調査報告書〔暫定版〕について

～（資料2）事務局より説明～

事務局：委員の皆様にも事前にお送りした資料において、29ページのBとCが逆になっていた。今、お手元にお渡ししている資料については修正をかけております。申し訳ありませんでした。

会長：ただいま事務局からアンケートの結果について説明があった。何かご質問等ないか。

委員：SDGsの分類マークを表記していきたいとのことだったが、項目としていくつもの分野に共通しているものもあり、どれに該当するか難しい部分もあるかと思うが、どのような感じで表記されるか、教えていただきたい。

事務局：イメージ的には17のゴールに対して、この施策に該当するものを表示する形になるかと思う。1ページに表示できるのであれば右上や左端等に、各施策に関連するSDGsのマークを表示させていきたいと考えている。構成上うまくそうなるかは分からないが、イメージとしてはそのように考えている。

委員：アンケートの結果について報告あったが、満足度でも、重要度でも一緒だが、普通がある。点数として3点と評価されている。この評価はものすごく難しい。統計の中身にもよるが、普通を捨てるという方法もある。要は満足なのか不満足なのかどっちかに分けてしまう、というようなデータの集計もある。普通があった時に、神崎市の5年間の施策として、事業としてどう展開するのかというのが非常に難しいかと思う。満足でもない、不満足でもないというのをどう考えたらいいいのか。

事務局：今回、前回と比較して、平成29年度からどのように意識が変わってきているのか、評価をしたいということで普通を残している。普通の中身というのをどのように考えて施策に生かしていくかということのところだが、おっしゃられる通り難しいところがある。

会長：確かに普通というのは難しい。分からないということで普通を付けている方もあろうかと思う。

事務局：今回の分析でいけば、普通は半々という捉え方で見ていくしかないと考えている。その上で、満足と不満足の割合を見て、やはりこちらは不満足が多い、満足が多いというのを踏まえて施策に取り組んでいくということになってくると考えている。

委員：このような項目の場合、中心が多くなる。本当はこの普通というのもどっちかに分けてほしい。それで前回、アンケートのやり方を変えて、項目を変えた方がいいと申し上げた。

会長：この調査方法として、前回と比較するために同様な調査の方法ということで、普通も入れられたと思う。確かに良いか悪いかははっきりとする方法も考えられるが。

- 事務局：今後アンケートをする時は、意見を参考にして取り組んでいきたい。
- 委員：今後の参考にしていただければと思う。
- 委員：29 ページの図はすごく面白いと思って見ていたが、これを使って 30 ページは重要度から満足度の引き算されている。満足度と重要度の意味が違うので単純に引き算していいのかというのもある。例えば平均値を 1 として比率にする等。どう考えればいいのかという部分があった。前回の質問に対して矢印で示しているもので、傾きが急でプラスの傾きであるとか、マイナスの方向に行っているものは改善すべきだとかそういう分析をできたらと思った。前回に比べて下がっているものは一目瞭然で、すごくわかるので、それに対する今回の施策をプラスの傾きに持っていくにはどうするか。非常にいいデータなので、データをうまく使えたらと思った。
- 事務局：例えば一番分かりやすいのは、「地域公共交通の充実」かとは思いますが、前回から何かあったのか、というところの原因の調査が追えるのかと考えている。地域公共交通については、路線の再編等を行っているので、路線を再編した結果、満足度が下がったのか、他の地区で上がっているのではないかな等を分析するのに、平成 29 年度の前回調査からの推移をプロットさせていただいている。この動きによってその期間に何があったのか、分析しやすいような形を取っている。優先度については、確かに優先度という表現でいくと基準がちょっと違うのではないかとこのところは認識しているが、市民の重要度に対する満足度の離れ具合というのが分かりやすいかと考えている。一番離れているからそこを埋めるような施策をして「幸せつなごう」に近づけようという考え方で、考えているところである。
- 委員：前回の満足度との比較と前回の満足度が何パーセントだったのか、何点だったのか、今回が何点だったのか、あるいはその重要度がどう変化したのか、そういう切り口もあろうかと思う。前回満足度高かったけど、今回、低いというものもあるし、逆転もしたのものもあるだろう。重要度についても同じである。そうすれば 5 年間の変化が見えるのではないかな。
- 事務局：暫定版の報告書としては、プロットの形で表しているが、前回比較での満足度の増減等が見える形での表も最終版の方には添付していきたいと考えているところである。
- 会長：前回との比較を一覧できるような形ということだが、よろしく願います。
- 委員：30 ページの農林水産業の振興についてであるが、福岡県の三潁郡の方に研修に行ったことがある。後継者支援について、県の助成金だけでなく市独自の補助金を上乗せするような取り組みをしていた。それであまおうを生産する若い人が出てきたということだった。
- 会長：施策の一項目についてだったが、今後こういったことも参考にしていただき施策を行っていただけたらと思う。
- 事務局：ご意見ありがとうございます。三潁の例として特色ある支援というお話だったかと思うが、神崎市も基幹産業、農業ということで施設園芸の方も盛んである。施設園芸を例にすると、県の 3 分の 1 の補助金があるが、神崎市独自で 17 パー

セントプラスして上乗せして、合わせて補助率 50 パーセントになるような施策も行っているところである。一例を挙げさせていただいたが、後継者対策等含めて、農業振興は大切であるので引き続き、市としてもやらなければならない項目だと認識をしている。

委員：現在、JA では、令和 4 年度から第 6 次 3 か年計画ということで、計画を立て、それを実行に移しているところで、その中にはトレーニングファームなどの項目もある。先日、神埼市の産業建設常任委員会の方々と JA 理事との意見交換会も行った。事務局からも言われたように補助事業等も活用しながら連携を取っていくということで、意見交換会をさせていただいたところである。後継者が出てこないことにはこの地域の第一次産業が活性化していかないということも、重々承知をしており、そういったところにしっかり手を入れていくという方向で進めている現状である。

委員：30 ページの企業誘致の推進や道路整備について、重要度は高く、満足度も平均値を満たしている状況であるが、神埼市において、企業誘致については南部の工業団地が推進されている。道路整備も合わせて必要になってくるが、企業誘致については山間部にも一定の企業が来られるような施策も講じていただきたい。というのが、企業誘致するには道路整備が必要になってくるが、脊振の方は道路の整備が遅れている。環境、自然を守るということも大事だが、悪くいえば何もしなくていいということになる。山間部には山間部にあった企業もあろうかと思う。南部、中部、北部という形で、それでそれぞれの地域が発展していけるような施策を講じていく必要があるかと考える。数字だけで見ると企業誘致や道路整備は平均的な評価になっているが、その辺りも考慮した上で、後期計画には臨んでいただきたい。

事務局：脊振への企業誘致も促していけるような総合計画にしたいと考えている。前年度の過疎地域持続的発展計画の方でも企業誘致について特段力を入れる旨を記載している。進出した際には税制上の優遇が受けられるような条例の改正等もしており、脊振の方に進出する企業が増えるような総合計画の形にしていきたいと考えている。

会長：企業誘致にとらわれずに、やはり脊振の方、山手の方にも入居ができるような施策を実施していただければと考える。よろしく願います。

事務局：現在、脊振の方でダムの事業が始まってきているが、建設課の方で、地域の活性化計画というのを作っている。そこでは、ダムと切り離して、脊振町の活性化、地域振興の観点から作っていきたいと考えており、今回の後期の基本計画は、そういった計画と関連するような形で、後期基本計画の中に盛り込んでいきたいと考えているところである。

委員：ダムに関しては話が出てから 50 年近くになるが、昔からダムと道路整備は別に切り離してくださいと言っている。県道もあるが、ダム整備があるのでという話になる。時代に合わないところも出てきている。やはり、事務局が言われるようにダム整備とは別にそういう整備をしないといけないところは早めにしていた

だきたいと思う。そのような計画にしていだきたい。

会長：脊振地域のご意見も踏まえながら、計画を練っていただければと思う。

委員：29 ページの図だが、B のエリアは、非常にいいように感じられるが、例えば、②子育て支援・児童福祉の充実は満足度も重要度も高いところに位置しているが、本当に満足度は高いのだろうかというのがある。またC のエリアでは改善・検証が求められる満足度も重要度も低いということだが、男女共同参画社会の推進というのが、位置しているが、何年も何年もずっとこの位置をキープしている。重要度が低いという意識をどうやって改善するかというのが大事なことだと思う。全てのエリアにおいて、重要度も、満足度もあるところを目指すものだと思う。だから、改善・検証が求められる項目でも注目する必要があるし、ずっとここで満足してはいけないと思う。また、満足度も重要度も高いところがあるところが本当にそうなのかという意識も持つ必要がある。例えば、消防・防災体制の充実という項目が満足度も重要度も高いところに入っているが、この総合計画全体を見ても、日常の平和な中でのあり方である。災害が起きたり、今世界的にも何が起こるかわからないような、危機感を持っている中で、非日常の何か起こった時の体制っていうのは非常に充実していないと思う。この現状で満足していいのかなっていう疑問もある。これはアンケートの結果であるが、そういうふうに市民意識を引っ張っていく必要もあると思うので、その辺りも注目していただきたいと思う。

事務局：今回のアンケートの結果は、現在の情勢等を踏まえてこういった結果が出ているが、今後もC エリアにあるもの等については施策の改善、周知についての検証がまだ必要と考えている。周知等がまだ行き渡ってなかったりする場合は、行き渡る方法等を検証して、次回のアンケート時、満足度等が上がるように考えていきたいと考えている。

会長：満足がされているという項目についても、より今以上に満足度が向上するようにということで計画をたてていただければと考える。

委員：属性を見るとデータの偏りが心配だが、全ての項目についてクロス集計したデータを持っておられるのか。

事務局：今回、集計までに時間がなかったが、それらを踏まえて分析の方をしていきたいと考えている。

会長：神埼町とか町内におられる方は、神崎市はいいところということで、満足されているかと思う。しかし、脊振などから神埼町内への移転もある。移転するという項目は市外しかないわけであり、その辺りも踏まえた認識もお願いしたい。ずっと住んでいたいという項目は高齢者が多くなり、若い人ほどちょっと出ていきたいというのもあるかと思う。その辺りを把握できるよう事務局の手持ち資料として持っていただければと思う。

委員：34 ページのアンケートの結果だが、今後、神崎市が力を入れるべきこととして子育てや高齢者・障がい者を支援する「福祉のまち」というのがあるが、子育てと高齢者が一緒の項目になっており、子育てだけに特化した項目を作ることはで



きないのか。福祉ということでまとめると、高齢者福祉だけ、子育てだけの評価が見えない部分もある。

事務局：福祉っていう形でこういった形になっているが、その後の事業に関しては、子育てと高齢者は分かれた形にはなっている。アンケート等で子育てに関してと、高齢者福祉に関してで分けることは可能である。

会長：他にご意見等はないようなので以上で議事を終了とする。市民のアンケート、その満足度、重要度、また、取り組むべき課題について、いろいろと意見があった。皆様方の意見を踏まえながら計画策定を進めていただければと思う。

-----議事終了-----